

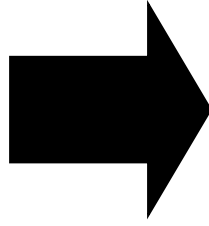
	課題分析	授業改善策
国語	・読む・書く・話す力の基礎力が定着し、平均値を示している。 ・漢字力、語彙力、表現力は個人差が大きく、語彙力向上に向けた読書活動の継続は欠かせない。 ・全体の読解力と文章表現力の向上が課題である。	文章の読み取りの着眼点の確認と、論理的文章から得た考えと根拠の文章化を習慣つける。スピーチやビブリオバトル、漢字テストの継続、短歌や俳句づくりなど、計画的に話す作業と書く作業を取り入れ、国語に興味をもって楽しむ姿勢を養う。eライブラリによる自主学習も定着させる。
社会	・調べ学習に意欲的に取り組み、スライド作成や発表方法にも工夫が見られた。 ・間違っても質問に答える積極性がなかなか身に付いていない。 ・基礎的・基本的な内容の定着に個人差がみられる。 ・取組自体を面倒に思って活動しない生徒も見られる。 ・一問一答形式の思考はできるが、知識を関連付けて回答するなどの応用的な思考は苦手である。	・自分の意見を発表しやすくするために、小グループでの意見交換の場を設けるなど、発表の仕方を工夫する。 ・基礎的・基本的な知識の定着を図るために、定期的にワークの取組を点検し、家庭学習の習慣化につなげる。 ・定期的にノート回収を行い、ノート作りにしっかり取り組んでいる生徒を評価していく。 ・資料から読み取ったことをまとめる時間を設け、思考力や表現する力を伸ばす。
数学	苦手意識をもつ生徒も多いが、授業中は意欲的に取り組む生徒がほとんどである。 問題文を図や表、グラフなどを活用して考える生徒が全体の半数程度である。これは文章題などの応用問題において大切な思考過程である。また、言語活動が不十分と答えた生徒の割合が4割近くあった。反復練習は習熟には必須であり、それには取り組んでいるが、できない問題を重点的に行う、という姿勢が不足している生徒が4割程度いることが確認された。	習熟度別少人数授業を活用し、教員と生徒の個々のやり取りや生徒間の教え合いの時間を充実させる。文章題の取り組み方として、立式に至るまでの経緯に目を向け、それを説明し合うなどの学習活動を取り入れる。また、反復練習の進め方を具体的に指示し、効率的に学習する姿勢を身に付けさせる。具体的には、一通り解く、間違えた問題だけを再度解く、の流れを繰り返す。eライブラリによる課題も取り入れ、反復練習するための環境を活用する姿勢を育成する。
理科	生徒は観察・実験活動に意欲的に取り組み、主体的に学習しようとする姿勢が見られる。対話的な学びも定着しつつあり、他者との協働も進んでいる。一方で、全国学力調査の結果からは、知識・技能に比べて「思考・判断・表現」の正答率が低く、特に記述式の問題で課題が顕著であることが分かる。また、科学的に根拠を示して説明する力や、得られた結果を論理的に整理して表現する力が十分でない点が課題となっている。	基礎的な知識・技能の定着を図るために、小テストや振り返り活動を繰り返し行う。その上で、実験や観察の結果を科学的に考察し、論理的にまとめる練習を段階的に取り入れる。具体的には、実験計画段階で「仮説→方法→予想→結果→考察」の流れを意識させ、結果を説明する際に必ず根拠を明示させる。また、グループでの意見交換や比較を通して多様な考え方を取り入れ、最終的にはタブレットを活用して自分の考えを整理・表現させ、発表や相互評価につなげる。これにより、科学的な表現力と論理的文章構成力の向上を図る。

音楽	2・3年は実技に対する意欲が十分にあり、読譜力も向上しつつある。1年は、小学校で合唱や器楽など実技中心の授業を送ってきており、基礎となる読譜力を欠く生徒が多い。全学年を通じて、鑑賞領域における批評や感想で、語彙力・表現力が乏しい生徒が多く、説得力のある文章を組み立てることが苦手である。	1年：複数の小学校から生徒が集まるため読譜能力に差異があることから、各自が身に付けた「基礎力の再確認」を行い、オリジナル教材「楽譜講座」を使用しながら音符・休符などの基本的な記号を教え確認する。 2年：既習曲に触れながら、具体的に発せられた音と楽譜の関係を結びつけられるような指導を行いつつ、1年で培った実技への意欲をさらに伸ばしていく。 3年：授業アンケートの反省を生かし、積極的にグループ活動を取り入れ、お互いの感じ取りや思いを共有できる授業を工夫する。 全学年：歌唱・器楽の実技だけでなく、タブレットを使用した創作など、様々な形のアプローチで音楽の楽しさを味わえる教材を開発する。また音楽用語の意味を知り、「音楽的な見方・考え方」という視点で音楽用語を自らの批評や感想に活用できるよう支援する。
美術	作品制作に使える時間と作業進度の兼ね合いを考え、曖昧な計画のまま制作を始めてしまい、見通しをもって取り組む力が足りない生徒が多い。 インターネットのイラスト、画像など、既成のものを作品のアイデアにそのまま利用しようとする生徒が増えた。	授業で進度の目標を示すことや、残りの時間を確認することで生徒が意識的に進度の調整を行えるようにする。教員の方でも各生徒の進度を確認し、進度が遅い場合は具体的にどこを助言する。 タブレットを利用した資料活用について具体的に指導し、生徒の創造性が高められるようにする。(あくまで参考資料であることを伝える。)
保健体育	学年によって差はあるが、意欲的に取り組もうとする生徒と運動嫌いから諦めている生徒二極化が起きつつある。特に強度の高い運動を継続することができず、体力向上と粘り強く運動に取り組む姿勢に課題がある。また男女共習により、運動能力の差も大きくなっている。体力や技能の向上に向けて自身と向き合うことや互いに高め合うことが課題。	体力向上のために行っているサーキットトレーニングを正しい姿勢で行うよう呼びかけると共に運動量の確保を心がける。頑張る生徒を応援する姿勢はあるので、その中で頑張る雰囲気を広げていく。 男女共習の授業を行い、性差を理解し互いに協力するとともに、体力や技能を高めるために教え合うことのできる授業を展開する。個人やチームの課題に対して、生徒が自ら課題解決に向けて取り組むことができる授業を展開する。また個の能力に応じて教員から指示や助言、サポートを行う。
技術・家庭	<技>授業に意欲的に取り組み、知識や技能の習得を積極的に行っている。課題は、学んだ知識や技能を実生活に生かして、作品を設計・製作することである。 <家>学習内容を具体的な自分の将来設計に関連付けて、学びを深めたり広げたりする意識に課題がある。	<技>授業内容において、設計・シミュレーションをする時間や、個々に応じたアドバイスをする時間を増やし、生徒が作品に愛着をもち、進んで作業を進められるようにする。 <家>実生活での実用例を組み入れ、生活とつながる場面を考えられるようにしていく。地域の特色を生かした具体的な課題を設定して、個人やグループで調べ考え話し合い、解決策をまとめて発表する。
外国語(英語)	積極的に課題や活動に取り組む一方で、基礎クラスでは、語彙や文法の知識が定着していない生徒が多い。積み重ねの教科なので、努力が結果に表れにくく、二極化が進んでいる。	基礎・基本的事項を定着させるため、授業内で反復練習を今まで以上に多く取り入れるとともに、比較的、努力が結果に表れやすい単語テストを定期的に行い、達成感や「やればできる」という気持ちを味わわせる。スモールステップで、丁寧な段階を踏みながら、力を付けさせる。

◎考え方

全国学力調査の結果、授業中の実態、観点別の学習状況、授業アンケートの結果等から生徒の実態把握および、指導方法の課題を分析する。

（どのような資質・能力を身に付けさせるための指導が必要か。資質・能力を身に付けさせるための指導方法の課題は何か。など）



学習指導要領の趣旨や学力向上を図るための全体計画、課題改善カリキュラム等を踏まえた具体的な授業改善策をまとめる。

（「主体的・対話的な深い学びの実現」に向けた具体的な授業改善策、タブレット端末の活用、言語活動の充実など）